

動労千葉を支援する会

ニュース

2026.2.20

414

動労千葉を支援する会事務局

千葉市中央区要町2-18 DC会館

Tel Fx 04322027820

メールアドレス info@odoro-shien.site

〒口座番号 00150131922036

2波ストから40年、 不当解雇から39年 2・8国鉄集会



国鉄分割・民営化による解雇から39年、2月8日、国鉄闘争全国運動は江戸川総合文化センターで国鉄集会を開催し、410名が結集した。司会を川崎執行委員と、動労東京環境アクセス支部の仲間が担った。

全国運動呼びかけ人の金元重さんが主催者あいさつ、連帯あいさつを三里

塚反対同盟の宮本麻子さん、在日ビルマ人のテンテンウさん、改憲戦争阻止！大行進の高山俊吉弁護士が行った。

関委員長は基調報告で、「本集会で、1047名解雇撤回、国鉄闘争の勝利に向かって、どんな壁でも私たちの闘いの力でこじ開けて、最後まで勝ち切るんだという決意を確認したい。戦時下の労働政策の転換攻撃の核心は『労働組合の存在そのものを許さない』『戦争ができる国』へと転換だ。労働者が本当にこの攻撃に対して闘えば、打ち破ることはまったく可能だ」と訴えた。

動労千葉ストライキ40周年をテーマに、当時の記録ビデオ上映と、当時副委員長としてストを指導した山口顧問、当時の千葉転支部長の永田OB会長、そして山田前幕張支部長、相馬前津田沼支部長、佐藤貨物協議会長が、当時の闘いの状況を語り、今の動労千葉への希望と熱い思い、今後も共に闘う決

意を語った。

1047名解雇当該として中村副委員長が「必ず勝利する」と熱い決意を語り、顧問弁護士から藤田さん、野村さんが1・23控訴審の勝利的報告を行った。次に支援する会から織田事務局長が山本さんの遺志を引き継ぎ、勝利まで共に闘うことを宣言した。

カンパアピールに続いて、廃線化阻止に向けた訴えを、久留里線と地域を守る会の都築事務局長が行った。

外注化と組織拡大に向けて動労千葉から渡辺書記長、動労総連合水戸の沼委員長、動労連帯高崎の木村書記長が、現場からの闘いの報告と決意を語った。

最後に船橋二和病院労組の飯田委員長、JP労組の仲間が決意表明を行った。集会のまとめを動労総連合の田中委員長が行い、団結頑張ろうで集会を締めくくった。

〃労働者を心から信頼し、
動労千葉を愛する〃

動労千葉を支援する会事務局長

故 山本弘行さん 偲ぶ会を 開催

1月24日、DC会館において、12月16日に逝去された山本弘行さんの偲ぶ会が、動労千葉を支援する会、国際連帯委員会、動労千葉の呼びかけで開催されました。

生前親交の深かった100人を超える人々が集まり、山本さんの思い出を口々に語り合う場となりました。

▽主催者より

動労千葉・北村書記次長の司会のもと黙祷を捧げた後、国際連帯委員会の小島さんが山本さんの闘病などの経過、ご家族からのメッセージを紹介しました。次に支援する会の織田事務局次長が、「山本さんは日本の階級闘争のメインストリームをずっと生きてこられた方だと、改めて実感しています。私たちは山本さんの遺志を引き継ぎ、動労千葉と共に全力で闘っていく」と決意を語りました。

動労千葉を代表して関委員長が昨日23日の高裁闘争の報告を行い、「山本さんは心から動労千葉を愛し全てを捧げ、

何はさておき駆けつけてくれる人でした。今日は山本さんの大好きな生ビールを用意したので楽しくにぎやかに偲ぶ会を行いたい」と挨拶しました。

▽ゆかりの深い人たちから

田中顧問の献杯の後、ゆかりの深い人たちから追悼の言葉を頂きました。

全国運動の呼びかけ人の金元重さんは「旭硝子の非正規闘争の完全勝利は山本さんのリーダーシップと人柄の賜物です。山本さんは皆さんの心の中に生きています」と語りました。

在日ビルマ人のテンテンさんは、「山本さんの言葉『労働運動は人の心であり組織であり団結』という彼の言葉通り、困難の中でも希望を持ち続けることが彼の使命でした。諦めないこと、団結して闘うこと、そして時には甘えでもいいのだという優しさを、私たちは学びました。山本さん、安らかにお休みください」と感動的な追悼の言葉を述べられました。



国内外から寄せられたメッセージの紹介につづいて、日本板硝子共闘労組の元委員長の小貫さんは、「旭硝子の闘争の際には業界の知恵を貸してほしいと頼まれ、韓国の労働者と共に工場見学や交流会を行いました。これほどの反骨精神を持った人は他に知りません」と涙ながら語りました。

宝石のような功績

60年安保、70年闘争を共に闘ってきた元千葉県反戦の井上さんは、「私は街頭での活動が主でしたが、彼は職場での労働運動に本当に一生懸命取り組んでいました。三里塚の農民と共に戦ってきた日々も思い出されます。彼の残した宝石のような功績を継いでいきます」と語りました。

非社員の社員化を実現

東洋エンジニアリング労組を共に担った内山さんは、「当時は社員と非社員の格差が激しかったが、我々は非社員の社員化を実現した。彼は嘘をつかず、常に弱い者の立場に立って行動で示してくれた」と職場での思いを語りました。ス労自主の入江委員長は、「あれほどまでに動労千葉の労働運動に情熱を注ぎ続けられるのか、私はいつも不思議でなりませんでしたが、本日の皆様のお話をお聞きして、その背景が少しだけ理解できたような気がいたします」と語りました。

託した2つの課題

全国運動・新潟の阿部さんは、「山本さんは1047名解雇撤回闘争に、本当に人生を懸けてこられた。その根底

には労働者に対する深い信頼があり、それを実現しようとする動労千葉の必死の努力があったのだと感じています。もう一点は、『真の国際連帯』を築く道筋を作ってくれました。この二つが、彼が私たちに託した大きな課題であると考えています」と追悼の言葉を述べられました。

▽動労千葉から

感謝、感謝！ 悲しく寂しい。

でも私たちの中にいる

山口敏雄顧問は、「組合員以上に動労千葉を愛してくれたのが山本さん。非常に寂しい」。永田OB会長は、「山本さんには感謝、感謝しかありません。1047名闘争勝利と組織拡大で一泡吹かせる闘いを」。佐藤家族会長は、「本当に悲しく寂しいです。でも山本さんは私たちの中にいます」と心のこもる追悼の言葉が述べられました。

川崎執行委員は、2003年にILL

WUに招請され初めて動労千葉が訪米した時の英語スピーチの猛特訓の話、高石さんは、船橋闘争を始め津田沼電車区のストのとき必ず駆けつけてくれたこと、佐野執行委員は、館山運転区廃止やワンマン化阻止、久留里線廃止

反対闘争等で大きな声でハッパをかけたことなどを語りました。関和幸さん、相馬さん、渡辺（靖）さん、大竹さん、共に訪米闘争を担った佐藤（正）さん、幕張から山田さんと越川さんらが思いを語りました。山田さんは「昨年の9月、市民会館前のベンチで休んでいた山本さんと30分近く話したのが最後になった。必ず勝利の報告を中野顧問と山本さんに行いたい」と語り、最後に渡辺書記長が「支援する会の担当としてお世話になりました。闘って、闘って、闘ってまいります。山本さん本当にありがとうございました」と感謝と決意を述べました。

▽車の両輪として共に進む

次に久留里線と地域を守る会三浦代表、船橋二和病院労組飯田委員長ら千葉の仲間など、多くの参加者が挨拶にたち、最後に支援する会運営委員がこれからも動労千葉と車の両輪として進む決意を語りました。

偲ぶ会の最後に中村副委員長が「1

047名闘争も勝利まであと一歩。山本さんと共に勝利に向かおう。2月8日の国鉄集会にぜひ結集してください」と訴え、全体でインタナショナル斉唱で偲ぶ会は締めくくられました。

久留里線・久留里く上総亀山間の廃線申請を許すな！

内房線 外房線と地域を守る会がJR千葉支社に要請行動

切実な訴え無視

2月9日、JR千葉支社は、久留里線・久留里く上総亀山間について、2025年度内に廃線手続きを行うことを発表した。これは、来年4月1日の廃線を狙った攻撃であり、絶対に許すことはできない。

この間、久留里く上総亀山間の沿線住民を中心に9148筆の署名がJR千葉支社（12月16日）と君津市（17日）に提出されてきた。

提出にあたり沿線地域の住民からは、「久留里線を残して欲しい」「地域にとってかけがえのない公共交通機関だ」「廃止になったら地域の過疎化が進んでしまう」という切実な訴えが行われた。こうした声を無視して廃線を許すめようとするJRの姿勢を絶対に許すことはできない。

あらためて久留里線と地域を守る会や久留里線沿線の住民と固く連帯し、久留里線・久留里く上総亀山間の廃線阻止に向けて闘いぬこう。

内房線の会 外房線の会 久留里線の廃線問題に議論集中

久留里線・久留里く上総亀山間の廃線問題が重大な局面を迎えている中、1月26日に内房線と地域を守る会が、同日29日に外房線と地域を守る会がそれぞれJR千葉支社に対する要請行動を行い、久留里線の廃線計画の撤回を求めると共に、JRが公表した久留里線等赤字路線の経費の詳細や、駅ホームと



内房線と地域を守る会



外房線と地域を守る会

列車の段差解消、この間撤去された駅待合室の設置等、具体的な改善を求めてJR千葉支社との議論を行ってきました。

要請行動は、久留里線・久留里く上総亀山間の廃線計画の撤回に向けた内容に議論が集中した。そもそも、これまでに行われてきた住民説明会や地域でのアンケートでは、「久留里線の存続」が圧倒的に多数をしめていること、昨年12月には多くの沿線住民を含む9148筆（内、亀山地区は73%の人が署名に賛同）が提出されていることなどをJR千葉支社にぶつけてきた。

これに対してJR千葉支社の担当者らは、「バス路線は困難との指摘について」JRが18年間負担するから「転換可能」（18年負担の根拠は）生まれ子が18歳になるまでということ」「9000筆以上の署名が提出されたが、署名で変更することはない」などと、地域住民の声を一切無視する回答を行ってきた。

また、鉄道を廃線にした後のJRの考え方として22年に当時の深澤社長が、「廃線後の経費負担は30年が目的」と発言していることに触れ、

何故、久留里線は18年に短縮したのかを問い質すと「そのことは分からない。中身も承知していない。費用負担の年数はケースバイケース」として社長の発言内容も把握せずに要請行動に対応するという極めて不誠実な姿が明らかになった。

久留里線 久留里〜上総亀山間の廃線はまだ決定してない！

そして、君津市交通会議で廃線の手続きに関する説明を行っていることから、廃線申請の考え方を質したところ、「届出については準備中だ。国土交通省に提出する書類を作成している」「提出書類は、利用者が少なくなっている実態や、これまでの地域活性化に関する資料などだ」と回答した上で、「できるだけ早く届け出を行いたい」との考え方を示した。

しかし、「廃線」に関しては、君津市公共交通会議の中では何らの「承認」や「決定」も行われていない状況だ。こうした追及に対してJR千葉支社の担当者は、「バス路線については、昨年6月と12月の君津市交通会議において、君津市から提示され、承認された」な

どとして、一方的にバス路線への転換が決まったかのような回答を行ってきた。

こうしたJR千葉支社の対応に対して内房線の会、外房線の会は、久留里

線の廃線計画の撤回をあらためて要求し、要請行動を終了した。

JRは久留里線・久留里〜上総亀山間の廃線計画を撤廃しろ！ JRは沿線住民の声を無視するな！

外注化は破たんした すべてを元に戻せ！

JR東日本が推進してきた外注化は全面破たんのプロセスに突入している。喜勢社長ら経営幹部は2001年以来の外注化について「破綻している」（雑誌『選択』1月号）と自認。JR東と全グループ会社に充満する矛盾の高まりの中、何かのきっかけで燎原の火のように怒りと闘いが爆発しかねない情勢だ。

<止まらない重大事故>

▽昨年10月31日、外房線（勝浦〜御宿間）で上り普通列車が倒木と衝突。一部が運転台のフロントガラスに突き刺さり運転士の数十センチにまで迫る重大事故。

▽1月16日、山手線・京浜東北線の停電事故で約8時間の運休。原因は、夜間工事後に検電設置装置を切り忘れたまま送電を再開したこと。わずか一カ月前の昨年12月13日にも宇都宮線でまったく同じ原因で停電事故

▽1月30日朝、上野駅で架線断線による停電が発生、常磐線快速（品川〜取手間）などが7時間の運休。

▽2月2日、京葉線八丁堀駅のエスカレーターから発煙し、一時運休

▽2月3日、国交省がJR東日本を呼び出し原因究明と再発防止策の検討を指示。国交省関東運輸局が、警告文書を発出

▽2月8日、宇都宮線（古河駅〜野木駅間）で深夜に架線が切れ9日始発から午後4時半まで運休。調査では約4キロの範囲で100カ所以上の架線設備の損傷が明らかに。事故後に断面を調べると交換基準の半分以下の4・1ミリだった

<企業としての腐敗の進行>

▽ジェイアール東日本企画が19〜23年度に8府省庁から計83件の事業を受託し、人件費として延べ1524人に対する計22億4100万円を請求していたが83事業すべてで業務日誌の改ざんが発覚。仕事をしていたのは371人で19億9500万円分が過大請求

組織再編提案を一部撤回

事業本部⇨事業場は「NG」

会社攻撃の矛盾が明らかに

1月28日、JR東日本は7月に予定する組織再編に関する修正提案を行ってきた。当初の提案では、12支社（首都圏・東北本部含む）を解体して、30の事業本部に再編し、「事業本部全体で一つの事業場」としていた。しかし、厚生労働省から許可が出ず、修正を余儀なくされた。事業場の単位については、基本的に現在の状態が維持される。会社の攻撃の矛盾が、ここでも明らかになっている。

労働基準法でいう事業場とは

「事業場」は「同じ場所」を基準にした考え方だ。労基法は「事業場」を単位として適用されている。36協定も事業場単位で結ばれ、8時間労働制という血を流して獲得してきた労働者の

権利も守られてきた。

今回JR東が行おうとしていた事業本部化は、広大な範囲と様々な職種の間を「一つの事業場」とするものだった。「事業場」という考え方そのもの

厚労省が進める「40年ぶり」の 労基法の抜本的改悪のポイント

- ① 個別企業の「労使協議」で「労基法以下」の労働条件を認める
- ② 社友会などの「労働組合もどき」に一人ひとりの労働者を縛る契約を結ぶ権利を与える
- ③ 社員代表選出を事業場単位でなく会社単位にする

を解体し、労働者の権利を根本的に破壊する重大な攻撃だ。

JRだけの問題ではない

これはJRだけの問題ではない。JR東の富田元会長は経団連の「労働法規委員会」委員長で、内閣設置の「規制改革推進会議」の議長だ。厚労省では「40年ぶり」という労基法の抜本改悪が進められ、「事業場」という考え方を解体する法改悪も狙われている。

組織再編攻撃に反対の声を

労基法改悪は当初、今年の通常国会提出、27年4月施行というスケジュールだった。しかし、昨年12月に通常国会への提出見送りが発表された。規制改革推進会議の議論も「仕切り直し」。そしてJR東の事業本部⇨「事業場」攻撃はいったん撤回に追い込まれた。労働基本権を根本から解体する攻撃は政府やJRにとつても簡単ではない。この攻撃を本当に打ち破るのは、職場からの団結した声と闘い、闘う労働組合の力だ。